高野山會議

KOYASAN CONFERENCE 2023

先端研への理解の道を歩めたか?!

～4日間の高野山会議2023体験記～

1

DAY1 7月13日（木）	DAY2 7月14日（金）	DAY3 7月15日（土）	DAY4 7月16日（日）
SESSION 00 高野山会議2023の楽しみ方 SESSION 01 和の芸術とデザイン	SESSION 02 インクルーシブデザイン 高野山麓エクスカーション	SESSION 03 次世代育成 ～STEAM教育と芸術環境創造～ SESSION 04 高野山のまちと人	SESSION 05 瞑想：自然と一体化した境地

「高野山会議2023」は東大先端研が主催し、先端アートデザイン分野が主管を、和歌山県と高野町、そして開創より1200年の歴史を持つ高野山の真言宗総本山金剛峯寺および高野山大学が共催を務め、ユニークな科学文化学術会議として今年第3回目を迎えました。

その３回目にして、初めて行われた社会連携研究部門パートナー企業による分科会を宿坊で行い、主要セッションのいくつかについて一般参加が可能となった情報を得て、「高野山会議」とは如何なるものなのか、実際に見に出かけました。

京都駅から３時間ほどの高速バスの旅の後、長い山道を通り抜けると高野山の町が目の前に現れ、建物の朱色が鮮やかで目立つのが最初の印象でした。宿坊に荷物を置き、開会式に参列しました。曼荼羅が指し示す全てが一体である世界観に近づくために、アートデザインと科学を結び、包摂的な社会を実現するために何ができるかを感性豊かにディスカッションする4日間は、金剛峯寺新別殿にて開会宣言を杉山正和所長が述べ幕を開けました。

時に駆けながら次のプログラムに飛び込む「合宿」のような学びの時間は、その場にいる人々の連帯感を生み、席が隣になった未知の人との束の間の会話さえも意義深いものに感じられるものでした。「『1200年後の世界』との関わり」をテーマに、４日間に行われた５つのセッションをリポートをします。

DAY1

SESSION 01 和の芸術とデザイン_THINKING WITH NATURE

質疑に応える講師陣（写真奥）

最初のセッションは伊藤志信特任准教授（先端アートデザイン分野）が統括を務め、同分野のアドバイザーでもあるRossella Menegazzo准教授（ミラノ大学）と木桶職人の中川周士氏（中川木工芸・比良工房主宰）が話をしました。

セッションでは、ChatGPTのような対話型AIの台頭に対して、熟練した職人の「手が考える」という表現にあるような無意識の領域が工芸のひいては人間の可能性、言葉を使わなくてもできることがあるとAIに対する人間の可能性が示唆されました。

その後、高野山大学黎明館で中川氏の木桶デモンストレーションが行われ、形の違った自然の木片を完璧な器へと作り上げる匠木工熟練士の技が披露されました。

DAY2

高野山で過ごす最初の朝は、宿坊で行われる朝の勤行からスタートします。精進料理の朝食をいただき、素早く身支度をして午前８時の朝のエクスカーションに参加しました。場所は、高野山金剛峯寺の壇上伽藍・根本大塔です。

壇上伽藍は奥之院と並ぶ聖地とされ、根本大塔の本尊である胎蔵大日如来とその周りを囲む金剛界の四仏、16本の柱に画家・堂本印象氏が描いた十六大菩薩、四隅の壁に描かれた密教を伝えた八祖の像を、堂内そのものが立体の曼荼羅として構成されている様子を見学しました。

SESSION 02 インクルーシブデザイン

午前9時からは金剛峯寺大会議室にて、伊藤節特任教授（先端アートデザイン分野）の統括のもとセッションが行われました。個と個が協力し生み出すインクルーシブデザインの有効性について、筑波大学・札幌市立大学の蓮見孝名誉教授、先端研の並木重宏准教授（インクルーシブデザインラボラトリー）が話をしました。

午後の橋本市・かつらぎ町との連携協定締結式を含めた高野山麓エクスカーション終了後、夕食を済ませ、金剛峯寺の新別殿へと向かいます。午後7時半より澤クヮルテット特別演奏会で、A.ウェーベルンの弦楽四重奏曲（1905）とL.v.ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第13番Op.130「大フーガ付き」の美しい調べに聴き入りました。30年以上同じメンバーでクヮルテットを組む、第1ヴァイオリンの澤和樹氏、第2ヴァイオリンの大関博明氏、ヴィオラの市坪俊彦氏、チェロの林俊昭氏が出演しました。

インクルーシブデザインの有効性について話をする並木准教授（中央）

DAY 3

SESSION 03 次世代育成 ～STEAM教育と芸術環境創造～

宿坊での勤行と朝食後、朝9時からのセッションでは、統括で東京フィルハーモニー交響楽団 コンサートマスターでもある近藤薫特任教授（先端アートデザイン分野）とともに、声楽家・東京音楽大学付属高等学校長・東京音楽大学の小森輝彦教授と横浜みなとみらいホール館長の新井鷗子客員教授（東京藝術大学）と株式会社 JERAの代表取締役社長CEO兼 COOの奥田久栄氏が次世代教育における芸術の位置づけと役割について示唆深い議論を展開しました。

コンサートシリーズ meets

高野山会議の出席者たちも一般拝観者たちと一緒に金剛峯寺の本坊に、コンサートを聴くために集いました。どこからともなく現れた第１ヴァイオリンの近藤特任教授、第２ヴァイオリンの戸上眞里氏、ヴィオラの須田祥子氏、チェロの広田勇樹氏がドヴォルザークの弦楽四重奏曲第12番ヘ長調Op.96「アメリカ」を奏で、拝観者や座って聴き入る人々を優雅に包む空間が生まれました。

4 たまたま訪れた拝観者たちも参加

先端アートデザイン展示

伊藤節特任教授、伊藤志信特任准教授、中川周士氏による「KOYA」木桶による花器・ワインクーラー、吉本英樹特任准教授（先端アートデザイン分野）の作品「DAWN」を鑑賞できました。

金剛峯寺という襖絵などの芸術品が溢れる中で、「KOYA」は自然の素材で創られたフォルムに美しさを、「DAWN」はプラチナ箔と先端技術の融合に幻想的な美を感じました。

5 吉本特任准教授の作品「DAWN」

SESSION 04 高野山のまちと人

SESSION 04「高野山のまちと人」では、吉本特任准教授が統括を務め、学校法人高野山学園法人本部長の山口文章氏と先端研の小泉秀樹教授（共創まちづくり分野）、東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士後期課程の浦井亮太郎氏が具体的な「まち」での事例をもとに高野山とその周辺を実際の活動を通して紹介しました。

DAY 4

SESSION 05 瞑想：自然と一体化した境地

もはや日常化しつつある勤行後、一般の方も参加できるSESSION 05「瞑想：自然と一体化した境地」は、高野山大学副学長の松長潤慶教授、高野山学園の乾龍仁顧問、富士通株式会社デザインセンタークリエイティブディレクター/チーフデザイナーの藤原和博氏と東京大学の中上淳貴特任研究員が登壇し、和歌山県の岸本周平知事と先端研の小泉悠講師（グローバルセキュリティ・宗教分野）が特別ゲストとして紹介されました。

それぞれの専門分野から、現代社会に起こるさまざま事象が語られ、私たちの奥底にもともとある「変わらないものとしてのこころ」について深い思考に及ぶ、締めくくりにふさわしいセッションとなりました。

6 高野山宣言 2023 が読み上げられたクロージング

昼食後、会場を高野山大学黎明館へと移し、東京フィルハーモニー交響楽団弦楽アンサンブルの献奏後、杉山所長が全てのセッションを総括しました。

続いて、壇上で岸本知事、先端研の神﨑亮平シニアリサーチフェロー、杉山所長、金剛峯寺第524世寺務検校執行法印・高野山大学の添田隆昭学長、高野町の平野嘉也町長、高野山金剛峯寺執務公室長の藪邦彦氏が高野山宣言2023を読み上げ、一人ひとりが協力し共存できる社会を構築し、持続させていく社会を実現させ、1200年後の未来のためのメッセージとして「高野山会議2024」へと繋げていくことを宣言しました。

写真：2～4 世利之　1 5 6 照井壮平／文：広報・情報室　西村並子